

花草木

【マテバシイ】

マテバシイ（ブナ科オニガシ属 マテバシイ学名：Lithocarpus edulis）は、日本固有種の常緑高木で本州、四国、九州、沖縄、に自生していますが、暖かい気候を好むようです。

昔から公園、街路樹などに植えられ、旧来の分布ははっきりしなくなっています。果実は渋みがなく、炒って食べるとスダジイ、ツブラジイと同じように食べられます。味はやや薄いようです。

果実は秋 10 月頃になりますが、食べることのほか他のドングリと同じように木工細工の材料にも使用されます。

花言葉は、「長寿」「もてなし」「永遠の愛」などです。



大阪市内の公園で見つけたマテバシイの果実（どんぐり）

我が署のスタッフ 福井森林管理署

湯地 純子（ゆじ じゅんこ）（令和6年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

治山グループの係員として様々な業務に取り組んでいますが、冬の福井は積雪の影響があり現場に行くことが出来ないため、来年度に向け治山工事の発注準備など事務作業を行っています。雪が降るまでに必要な材料を集めておくこと、常に先のことを考えて動くことの大切さを実感しています。

また、治山以外に林道の業務にも携わっています。知識と経験を増やし、スマートに業務遂行できるように頑張りたいと思います。



コンパス測量を行っている様子。

【職場の雰囲気は？】

仕事で困ったことを相談する環境はもちろん仕事以外の日常の悩みも相談でき、和気あいあいとした明るい職場です。

【林野庁の魅力は？】

木材利用や森林整備など多岐にわたる業務に携われること、そしてやはり現場作業があることが林野庁の魅力だと思います。

森林事務所等紹介

津山森林事務所（岡山森林管理署）

首席森林官 鳥谷 啓輔（とりたに けいすけ）

津山森林事務所は岡山県津山市に所在する岡山森林管理署の庁舎内にあります。

管轄区域は津山市の一部（旧津山市、旧久米町）、美作市、鏡野町の一部（旧富村）、勝央町、奈義町、久米南町、美咲町、西粟倉村の2市5町1村で、国有林21団地3,504ha、官行造林11団地489haを管理しています。

管内の代表的な国有林である那岐山^{なぎさん}国有林は、岡山県と鳥取県との県境に位置しており、両県から年間延べ1万人近くの登山客が訪れるほどの人気があり、木材生産も活発で令和7年度は約2,000m³を生産しており、令和8年度以降も同程度の生産量を見込んでいます。



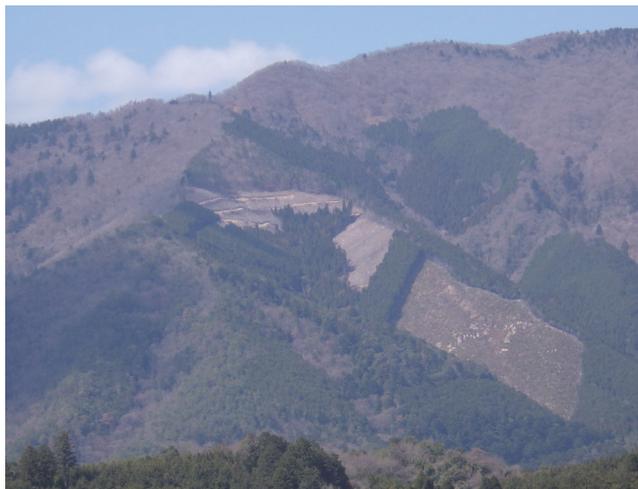
那岐山国有林：那岐山麓山の駅より望む（皆伐跡地より上部から国有林）

また、陸上自衛隊日本原駐屯地の北側に位置する滝山^{たきやま}国有林に入林する際は同駐屯地内を通る必要があり、かつて、ぬかるみにはまって動けなくなった当事務所の官用車を戦車で引き揚げてもらったという逸話もあります。

もうひとつの代表的な国有林は大戸山^{だいとやま}国有林で、全体的に高齢級林分が多いことから、伐採・再造林が進められています。



大戸山国有林：再造林後5年目の風景



滝山国有林の遠望

管内には、「道の駅 久米の里（通称ガンダム公園）」「津山城跡（鶴山公園）」「衆楽園」「津山まなびの鉄道館」などの観光名所も多くありますので、近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

シリーズ『国有林 最前線！』

希少の銘木「滑(なめら)マツ」

山口森林管理事務所

山口森林管理事務所は県内の国有林 8,022ha を管理しており、中でも県中央部に位置する滑山国有林(山口市)は約 2,500ha と県内最大の国有林です。

滑山国有林の歴史は古く、約 840 年前の源平の戦いで焼失した東大寺の再建用材として大勸進職^{なめらやま}※¹の俊乗房重源^{だいかんじんしき}によって伐採搬出されたのが始まりとされており、江戸時代には毛利藩によって管理されて以降、明治 14 年に国有林として管理されました。

滑山国有林の中腹から尾根にかけて自生する樹齢 200 年以上、胸高直径 60 cm 以上の良質な天然のアカマツが通称「滑マツ」として賞賛されており、①樹幹は通直でうらごけ^{しゅんじょうぼうちようげん}※²が少ない、②枝下が高く枝が少ない、③樹皮が極めて薄い、④年輪幅が狭く均等で偏心がない、⑤心材部分が多く、赤色鮮明で光沢があり辺材が少ないのが特徴です。

昭和 40 年には皇居新宮殿「松風の間」の内装用材として使用され、昭和 42 年から 43 年にかけて、国指定の名称「錦帯橋」の修理用材として滑マツが使用されました。

しかし、その後マツ枯れや台風被害などにより本数が激減したため、平成 2 年には滑マツが多く残る区域を「滑山林木遺伝資源保存林」に指定し、後継樹育成のためのアカマツ稚樹の刈出し、滑マツ保護のためマツの幹の直接薬剤を入れる樹幹注入などを実施しています。

また、平成 26 年には滑マツの保全と理解の増進に資することを目的に、県内の有識者を中心に「滑マツ保存会」が設立され活動を行っています。

山口森林管理事務所では、今後もこの希少な銘木を後世に残すため、保全と再生に向けた取組を進めてまいります。



滑山国有林 (滑マツ)



下から見上げた滑マツ

※ 1 中世以降の寺社における造営・修復の財源確保や工事管理の最高責任者を指す役職名。

※ 2 うらごけ(梢殺)とは、樹幹(木の幹)が根元から先端に向かって、急激に細くなっている状態を指します。対義語は、かんまん(完満)で細りが少なく、ほぼ円柱状に通直(まっすぐ)な状態を指します。